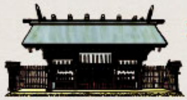
にしくまち歩きマップ

NISHIKU
MACHIARUKI
MAP



寺社

① 勧行寺

文禄4(1595)年、日豊(にちよう)によって開山されました。境内は木々に囲まれ静寂さが漂い、横浜市の名木古木に指定されている大イチョウがあります。また、天然理心流(てんねんりしんりゅう)開祖の近藤内蔵助長裕(こんどうくらのすけながひろ)の墓(供養塔)があり、新撰組の隊長として名を残した近藤勇(こんどういさみ)はその4代目にあたります。

南軽井沢9 MAP A-2

② 浅間神社

社殿のある丘は通称「袖摺山(そですりやま)」と呼ばれ、埋め立て以前は、そのすぐ下は袖ケ浦という美しい入り江でした。承暦4(1080)年に富士浅間神社の祭神、木花咲耶姫命(このはなさくやひめのみこと)の分霊を祀ったと伝えられ、富士山の山開きに合わせて旧暦の6月1日には盛大な祭りが行われています。

浅間町1-19-10 MAP B-2

③ 成田山横浜別院延命院

通称「野毛不動尊」。本尊は不動明王。明治3(1870)年、開港後の横浜に移住して来た多くの人々のために、本山成田山新勝寺より分霊を移して大田村(現在の南区西中町)に遥拝所を設立したのが始まりです。その後、明治9(1876)年に高島嘉右衛門(たかしまかえもん)から敷地の寄進を受け、現在の地に移りました。

宮崎町30 MAP E-4

④ 洪福寺

開山は呑海(どんかい)で、寛永13(1636)年袖摺山(そですりやま)薬師堂を当地に移したことが始まりと言われています。本尊薬師如来は、鎌倉権五郎景政(かまくらごんごろうかげまさ)の守り本尊と伝えられ、眼洗い薬師と称されていました。景政が後三年の役で片目を射抜かれながら、奮迅したことからついた俗称と考えられます。

浅間町5-385-3 MAP D-1

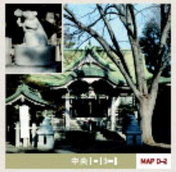
⑤ 水天宮平沼神社

「安産・水難の神」を祀っていて平沼町の埋め立てに成功した平沼九兵衛(ひらぬまきゅうべえ)により天保10(1839)年に創建されました。その起源は塩田の水路に水天宮のお札が流れ着いたのを拾い上げて、平沼新田の守護神として祀ったのが始まりです。毎年1月5日に執り行われる湯立神事(ゆたてしんじ)で沸かした湯を飲むと、一年中風邪をひかないと言われています。

平沼2-8-20 MAP D-2

⑥ 杉山神社

白鳳3(652)年に創建。出雲大社の主神、大国主命(おおくにぬしのみこと)の分霊を祀った古社です。社殿前の狛犬の手前には打出の小槌を持つ一対のねずみの石像が鎮座しています。これは大国主命につかえて功があったとされる神使(しんし)をモチーフにして、創建1350年の記念に誕生したもの。境内には横浜市指定の古木ケヤキもあります。



中央1-13-1 MAP D-2

⑦ 願成寺

建立は戦国時代、天文期(1532〜55年)と言われる古刹です。その昔、行基菩薩(ぎょうきぼさつ)がこの地で喉の渇きを覚え水を探していたところ、1匹の亀が出てきた路傍を掘ってみると清水が湧き出て渇きを癒すことができたことから、このあたりを法亀山(ほうきさん)と名付けて草堂を作りました。この草堂が願成寺の始まりです。

西戸部町3-290 MAP E-2

⑧ 伊勢山皇大神宮

明治3(1870)年に、横浜市民と港の守り神として、政府と県により創建された神社。伊勢神宮と同じく天照大御神(あまてらすおおみかみ)を御祭神としています。かつては県の祭祀を執り行う神社と定められ、県庁「キングの塔」最上階に分霊が祀られていました。また、隣接して皇室の御用邸である伊勢山離宮も存在していました。

宮崎町64 MAP E-3

⑨ 東福寺

鎌倉時代中期の寛元元(1243)年に元心法印(げんしんほういん)が開山したと伝えられます。江戸時代には徳川家康(とくがわいえやす)公から寺領を賜り、葵の御紋を寺紋として使うことを許された名刹です。幕府との縁を表す御朱印寺の証として江戸期に朱塗りとなった山門。現在の町名、赤門町の由来となっています。

赤門町2-17 MAP F-3

創建以来このお寺は7回も焼失し、今の伽藍は昭和36(1961)年までに再建されました。赤門を入ると正面にえん魔堂、右手に本堂。その裏手墓地には、伊藤博文(いとうひろぶみ)ら政財界の大物と親交を深めた料亭富貴楼(ふうきろう)の女将お倉の墓や本院より寄進された大きな石の水鉢が残っています。幾度も大火を乗り越えた東福寺は、威風堂々とした風格を今に伝えます。

施設・建物

⑩ ぷかりさん橋

日本初の浮体式ターミナルです。建物ではなく、船舶(係留船)として登録されており、実際に中に入るとゆらりゆらりと船に乗っているのを実感できます。パシフィコ横浜への海からのアクセスを確保するほか、港内観光の拠点となっています。

みなとみらい1丁目付近 MAP D-5

⑪ 横浜美術館(2023年度まで休館)

年間を通じて、約1万2千点の所蔵品からテーマを設定し、展示を行うコレクション展、多彩な企画展を開催するほか、11万冊を超える蔵書がある美術情報センターや、さまざまなワークショップを行うアトリエなどもそろう、国内でも有数の規模を誇る美術館です。

撮影:[illegible]

みなとみらい3-4-1 MAP D-4

⑫ 横浜能楽堂

本舞台は、明治8(1875)年に旧加賀藩主の前田斉泰(まえだなりやす)邸に建てられ、大正8(1919)年に旧高松藩主邸に移築された「染井能舞台」を復元したもの。関東地方に現存する最古の能舞台で、本舞台の利用のない時は2階から見学できます。

紅葉ケ丘27-2 MAP D-3

⑬ 戦後モダニズム建築

神奈川婦人会館
神奈川県立音楽堂
神奈川県立図書館
神奈川県立青少年センター

紅葉ケ丘9付近 MAP E-3

近代建築の巨匠ル・コルビュジエに学び、戦後モダニズム建築の旗手とされる前川國男の設計による名建築が、紅葉ケ丘周辺で一度に楽しめます。5者コンペにより選ばれた全体計画は、図書館と音楽堂をずらして配置することで広く開放的な前庭を設けるものでした。建物は外壁で囲まずに柱やガラス、穴あきブロックを使って明るく親しみやすい空間を作っており、一連の建築群は「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」に選定されています。また、音楽堂は「木のホール」として知られ、音響は国内外から高い評価を得ています。

「西区デジタル観光マップ」のご紹介

まち歩きがもっと気軽に、もっと楽しく

まち歩きスポットをスマートフォンで手軽にチェックできます。baybike(シェアサイクル)ポートなど、新スポットも掲載。現在地からのルート検索もできて、まち歩きのお供に最適です。

(ご注意)
スマートフォンの「位置情報サービス」設定をONにしてご使用ください。

日本語版

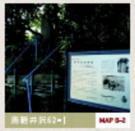
英語版

発行: 横浜市西区役所区政推進課　令和4年6月発行(第9版)
〒220-0051 横浜市西区中央1-5-10　tel: 045-320-8321　fax: 045-314-8894

名所・旧跡

⑭ 軽井沢古墳跡

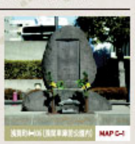
昭和40(1965)年に帷子川(かたびらがわ)北側の台地から発掘されました。横浜市域では貴重な前方後円墳で、横穴式石室と竪穴式石室があります。出土遺物から、7世紀前半につくられた古墳だと考えられています。今では土地造成のため消滅し記念碑が建てられています。



南軽井沢62-1 MAP B-2

⑮ 木村坦乎先生終焉の地石碑

木村坦乎先生は仙台出身で明治11(1878)年に神奈川県の教師として赴任。保土ケ谷小学校から帷子小学校の校長になった教育者です。教職をとった当時、学校に通えない子が多かったことから、校長の職を辞した後、私費で隣徳(りんとく)尋常小学校を設立。関東大震災で71歳の生涯を閉じましたが、木村先生の徳をしのぶ有志が碑を建てました。



浅間町1-106(浅間車庫前公園内) MAP C-1

⑯ 二代目横浜駅遺構

明治5(1872)年、横浜-新橋間の29kmに日本初の鉄道が開業しました。最初の横浜駅があった場所は現在の桜木町駅あたりで、その後大正4(1915)年には東海道本線の列車がスイッチバックせずに停車できる駅が高島町に開設。れんが造りのこの駅が二代目横浜駅になりました。その後大正12(1923)年の関東大震災で倒壊し、現在の場所に移転しました。

高島2-1 MAP C-3

⑰ パシフィコ横浜

みなとみらい1-1-1 MAP C-4,5

世界最大級の複合MICE施設として国立大ホール、会議センター、展示ホール、ホテルを擁する国際交流拠点。外観はそれぞれ「貝」「光」「波」「帆」をイメージしており、国立大ホールには、平山郁夫(ひらやまいくお)画伯下絵による大ステンドグラス、ホテルの先端には女神像などが設置されています。

⑱ 伝御所五郎丸墓

御所五郎丸の墓と伝えられる五輪塔。大理石版に五郎丸にまつわる話が刻まれています。建久4(1193)年、源頼朝(みなもとのよりとも)が富士の巻狩をした夜、曽我兄弟(そがきょうだい)は、この巻狩に参加していた工藤祐経(くどうすけつね)を父の仇として討ち取りました。その際、五郎丸が兄弟を祐経の館に導き、仇討ちの手助けをしたと言われています。

御所山町25 MAP D-3

⑲ 岩亀横丁・岩亀稲荷

横浜が開港した安政年間、横浜公園付近にあった「岩亀楼」という遊廓(ゆうかく)の寮があったのにちなみ、「岩亀横丁」と呼ばれるようになりました。付近には「岩亀稲荷」が祀られており、毎年5月には例祭が営まれるなど近隣の人々に大切に守られています。岩亀楼は、作家・有吉佐和子(ありよしさわこ)の戯曲「ふるあめりかに袖はぬらさじ」の舞台のモデルになっており、岩亀稲荷の境内にはタイトルに使用された和歌が掲げられています。

戸部町4丁目付近 MAP D-3

⑳ 掃部山公園・井伊掃部頭直弼の銅像

江戸時代には不動山、明治になると鉄道山と呼ばれていました。横浜開港の立役者であり、彦根藩主だった大老「井伊掃部頭直弼」の功績をたたえるために旧彦根藩の有志がこの地を記念碑建設の目的で購入し、掃部山と名付け、明治42(1909)年には銅像が建立されました。その後大正3(1914)年に横浜市へ寄贈されて掃部山公園となりました。

紅葉ケ丘57 MAP D-3

㉑ 金星太陽面経過観測記念碑

金星が太陽の前面を通過するという珍しい現象が明治7(1874)年12月9日に起きました。日本はこの観測の最適地であったため、横浜、神戸、長崎などに大規模な観測体制がしかれ、コバルビアスを隊長とするメキシコ隊が宮崎町に観測所を設け観測にあたりました。この記念碑は観測100年を記念して建てられたものです。

紅葉ケ丘9-1(県立青少年センター前) MAP E-3

㉒ 神奈川奉行所跡

安政6(1859)年、開国にあたって横浜村が開港場に選ばれたことをきっかけに野毛山の北の裏台に奉行所が設けられました。野毛山が断崖をなして海に迫っており、開港場の中心から離れた地にあるため、外国人に内政を秘密にできることと、戸部が城郭にもできる要害の地であったことが、奉行所の場所として選ばれた理由です。

紅葉ケ丘9-1(県立青少年センター前) MAP E-3

㉓ 桜木町駅(初代横浜駅)

明治5(1872)年、横浜・新橋間の29kmに日本初の鉄道が開業しました。最初の横浜駅があった場所は現在の桜木町駅あたりです。新南口の改札外には旧横濱鉄道歴史展示があり、蒸気機関車やジオラマを楽しめます。

中区桜木町1 MAP E-4

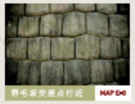
㉔ 日本ガス事業発祥の地 記念碑

明治4(1871)年、高島嘉右衛門(たかしまかえもん)は、フランス人技術者プレグランと契約し、伊勢山下石炭蔵跡(現:本町小学校)にガス工場の建設を始め、明治5(1872)年9月29日、日本初のガス灯がともされました。本町小学校の敷地内のガス工場跡には1本のガス灯と記念碑が立てられています。

中区花咲町1-55(本町小学校内) MAP E-4

㉕ 旧平沼専蔵邸の石積擁壁

野毛交差点の角にある高い石垣。明治時代の豪商平沼専蔵邸の石積擁壁で六角形の石が積まれています。「亀甲(きっこう)積み」といわれ施工精度は市内随一です。山手の西洋式の「ブラフ積み」と並んで有名です。



野毛坂交差点付近 MAP E-3

㉖ 久保山墓地

明治7(1874)年横浜で初めての公営墓地として設置されました。新田開発に力を注いだ吉田勘兵衛(よしだかんべえ)や三溪園を造成した原富太郎(はらとみたろう)など多くの人が眠ります。総面積約10万㎡という広大な墓地には、戊辰戦争の戦死者が祀られた官修墓地(かんしゅうぼち)や関東大震災で亡くなった人の合祀霊場もあります。

元久保町3-24 MAP F-1

㉗ オリンピック記念碑

昭和39(1964)年開催された東京オリンピック。サッカー、バレーボール、バスケットボール(予選)の3種目が横浜市で行われ、これを記念して昭和41(1966)年に設置されました。彫刻家、堀野秀雄(ほりのひでお)が制作した3種類のレリーフがはめ込まれています。

老松町63-10(野毛山公園内) MAP F-3

公園

㉙ 臨港パーク

横浜港を臨む抜群のロケーションが目の前に広がる「臨港パーク」は、みなとみらい21地区最大の緑地で、季節を感じさせる草花やオブジェなどがあります。多くの人に利用されている憩いの場となっています。

みなとみらい1-1-1 MAP D-4,5

㉚ 野毛山動物園・野毛山公園

老松町63-10 MAP E-3,F-3

野毛山公園に動物園ができたのは、昭和24(1949)年に開催された日本貿易博覧会がきっかけでした。会場で展示した動物が訪れる人たちに喜ばれていたので、その跡地に動物園を含む野毛山遊園地として昭和26(1951)年に開園。昭和47(1972)年に野毛山動物園と改称されました。
公園の展望台からは、区内が一望できます。

㉘ H.S.パーマーの記念碑・野毛山配水池

H.S.パーマーは明治16(1883)年来日し、横浜をはじめ、大阪、函館の水道工事を設計しました。開港以来、水不足に悩まされていた横浜では、明治20(1887)年日本最初の近代水道が創設され、この地に最初の浄水場が完成しました。関東大震災により浄水場は壊滅しましたが、昭和2(1927)年3月、その跡地に鉄筋コンクリート製で円形の配水池が完成し、平成13(2001)年3月まで活躍しました。

老松町63-1(野毛山公園内) MAP F-3

歴史ある横浜港

㉛ 横浜みなと博物館

「横浜港」をテーマにした博物館です。開港160年の歴史を紹介する「横浜港の歴史」ゾーンと、横浜港の役割をテーマ別に学べる「横浜港の再発見」ゾーンで構成された常設展示で、横浜港のことを楽しく学ぶことができます。「柳原良平アートミュージアム」が併設されています。令和4(2022)年にリニューアルオープンしました。

㉜ 帆船日本丸

29枚の白い帆を広げた美しい姿から「太平洋の白鳥」として親しまれ、練習船として活躍していました。全国10都市が誘致に名乗りをあげていましたが、横浜市の「生きた帆船」としての保存計画が評価され、昭和60(1985)年から一般公開が始まりました。平成29(2017)年には国の重要文化財に指定されました。年に12回程度、すべての帆をはる総帆展帆(そうはんてんぱん)を行っています。

㉝ 旧横浜船渠1号・2号ドック

明治22(1889)年、大型船の造船や修繕を行う横浜船渠会社が設立され、1号・2号船渠(ドック)がつくられました。現在は1号ドックには帆船日本丸が係留保存され、2号ドックはドックヤードガーデンとして復元されています。

2号ドック(復元)

㉞ 日本丸メモリアルパーク

国指定重要文化財である第1号ドックと帆船日本丸、そして横浜みなと博物館がある公園です。海側には芝生の緑地があり憩いの場となっています。帆船日本丸前のアリーナではコンサートやイベント等が行われています。

みなとみらい2丁目 MAP D-4